

柴山清風展

— 没後50年・陶彫にみる清風のこころ —



弥勒菩薩 大善院 蔵

6月1日[土]～7月7日[日]

■開館時間…10時～18時

■休館日…月曜日

■協力…清風の陶房

半田市立博物館

愛知県半田市桐ヶ丘4-209-1 0569-23-7173

柴山清風(1901-1969)は、昭和の常滑を代表する陶彫作家のひとりです。清風は明治34年(1901)常滑に生まれました。当時常滑町では、常滑焼の美術的価値の向上を目的として、常滑美術研究所が設立されました。イタリアの彫刻家ラゲーザの教えを受けた内藤陽三、寺内信一らが教鞭をとり、その教え子たちが後に常滑陶器学校の教師となり、後進の指導にあたりました。清風もここで彫刻技法などを学び、卒業後陶器学校助手として勤務し、その後原型師として独立しました。



北条神明社の狛犬 常滑市



聖観音 相持院 常滑市



一葉観音 三重県鳥羽市



工房にて完成した聖観音像と



護国観音 本宮山 常滑市



千体観音



千体観音制作中の清風

清風は、型作りの焼き物製品の原型をつくる職人仕事を生業としながら、戦争の時代のなかで多くの人の救いとなるべく、千体の観音像を作ることを発願し、生涯にわたって陶器の仏像をつくり続けました。その千体観音は希望者に無償で全国に配布されました。その後、次第に大物陶彫の依頼を受けるようになり、各地に建立されるようになりました。

清風は、人々を慰め寄り添って生きていきたいという心を込めて、仏像などの陶彫作品を制作していました。ほほえみを浮かべたやさしい顔立ちが特徴です。この機会にぜひご覧ください。

柴山清風 略年表

1901年(明治34)	常滑の農家の三男として生まれる
1915年(大正4)	常滑町立陶器学校卒業・陶器学校助手として勤務
1926年(昭和元)	原型師として独立
1934年(昭和9)	「千体観音」「弾除け観音」をつくり始める
1938年(昭和13)	一葉観音(鳥羽市)をはじめ大物陶彫を手掛け出す
1958年(昭和33)	最後の大物陶彫(相持院の聖観音)を制作
1969年(昭和44)	最後の千体観音を制作
同年	永眠

半田市立博物館

〒475-0928 愛知県半田市桐ヶ丘4-209-1 TEL 0569-23-7173



アクセス

電車のご案内: 名鉄知多半田駅から徒歩20分/名鉄成岩駅から徒歩15分
車のご案内: 知多半島道路半田I.C.から5分/半田中央I.C.から10分